マウちゃんの ハマナスさんぽ

発行／石狩浜ハマナス再生プロジェクト協議会

マウちゃんの ハマナスさんぽ

ハマナスの妖精
マウちゃんが
石狩浜周辺を
ご案内

マウちゃんと一緒に石狩浜を歩きませんか？

マウちゃんと

ハマナスさんぽにでかけよう

石狩市本町地区へのアクセス

バス

「北海道中央バス札幌ターミナル」から
「7番のりば・石狩線・石狩行き」乗車、
「石狩温泉前」または終点「石狩」下車（約70分・700円）

2022年2月現在

車

札樽自動車道「札幌北IC」より約20㎞（約40分）
（国道231号線を厚田・留萌方面へ、
道道225号線へ左折し約3㎞）

もくじ

3ページ 四季の風景
5ページ はまなすの丘公園を歩こう
7ページ 歴史を学ぼう
9ページ 海辺で遊ぼう
11ページ 空から全体を見てみよう
13ページ 植物とともにたくさんの生きものがくらしているよ
15ページ ハマナスを知ろう
17ページ 石狩浜ハマナス再生プロジェクト
19ページ 香りの歴史を刻む海辺に花摘みびと、ふたたび

四季の風景

春

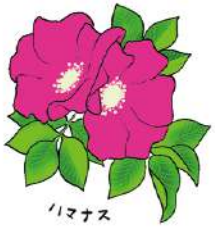
植物たちは雪解けとともに芽を出します。ヒバリたちがさえずり、5月になると、イソスミレやハマハタザオの花が開きます。

秋

8月になると、ススキの穂が揺れ、ハマナスの実が赤く色づきます。ウンランやハマニガナが砂地に小さな花を咲かせます。

夏

初夏、ハマナスの香りがただよい、小鳥たちが飛びまわります。6〜7月にかけて、たくさんの花が砂丘を彩ります。

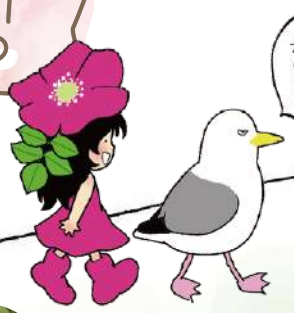


冬

日本海からのたえまない風と荒波が砂浜に造形をつくりだします。厳しさの中にも生きものたちの営みがみられます。

はまなすの丘公園を歩こう

はまなすの丘公園は石狩川が運んだ砂が
日本海からの風と波によって積もり
植物たちがつくりあげた自然の大地です



日本海

アイスモンスター

入り口から河口まで
約1.5km

石狩川河口
地形がダイナミックに
変化

テンキグサ 穂
(6月～)

ハマニガナ
(6月～)

エゾカワラナデシコ
(7月)

エゾスカシユリ
(6月)

このあたり一帯は
湿地の植物が見られる

コウボウムギ 穂
(7月～)

春の味
ハマボウフウの群生
(ここでは採取できません)

ハマボウフウ
(7月)

風の影響で
背の低いハマナス群生
(6～7月)

分布の北限
早春の砂地に咲く
イソスミレ

イソスミレ
(5月)

ホオアカ
(春～夏)

アキグミ 実
(9月～)

ノハナショウブ
(6～7月)

あずまや
入り口から約800m

スキ 穂
(8～9月)

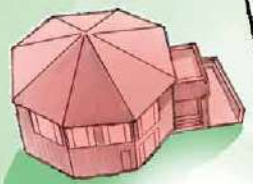
ハマハタザオ
(5月)

ハマヒルガオ
(6～7月)

ヒバリ
(春～夏)

管理道路（散策できます）

はまなすの丘公園
ヴィジターセンター



P 駐車場

木道

木道入り口

ハマエンドウ
(5～6月・9月)

ノビタキ
(春～夏)

この道は
弁天歴史通りに
つながってるよ!

間近で見られる
ハマナス

ハマナス 実
(8月～)

石狩川

提防の上も歩けるよ

提防

石狩灯台
明治25年1月1日に点灯。当時は
灯台付近が河口でした。
昭和32年に映画撮影のために
紅白に塗り替えられました。

散策の心得

- 決められた場所を歩きましょう。
- 植物の採取は禁止です。
- 野生動物は遠くから見守りましょう。
- 肌の出ない服装で歩きましょう。

はまなすの丘公園ヴィジターセンター

石狩の特産品やハマナスの関連商品などの
お土産やソフトクリームなどを販売しています。

ハマナス
ソフトクリーム

歴史を学ぼう

石狩市本町地区

日本海

あそびーち

「弁天歴史公園」や「石狩弁天社」など
石狩の歴史と文化について触れられる
スポットが多数あります

ここから
石狩灯台まで
1.4km

今咲いている花や
海浜植物の情報が
たくさんだね!

ハマナス再生園
(P17)

石狩浜海浜植物
保護センター

石狩の歴史
を学ぶなら
ここだね!

弁天歴史公園

弁天歴史通り

ステキな
散策路♡

マウちゃん
どこまでも道が
続くよ〜〜

「無辜の民」入口
カンバンあるよ〜

マウニの丘

無辜の民
彫刻家・本郷新
の作品

至 石狩灯台

こっちからでも
灯台に行けるよ〜

石狩八幡神社

石狩天然温泉
番屋の湯

海・川・河口の
自然と歴史を
学べます。

soup
to
BREAD
ドイツパンの
お店

旧石狩小学校

いしかり砂丘の風
資料館

旧長野商店

石狩番屋の
生鮮市場

俳句資料や
書画を展示した
私設資料館

石狩尚古社

佐藤水産魚醤工場

後藤商店

旧林醸造所レンガ蔵

旧金谷商店石倉

BUS

←至 札幌

料理民宿
やまたま

一階
北の味いしかり亭

石狩川河口
渡船場跡

石狩川

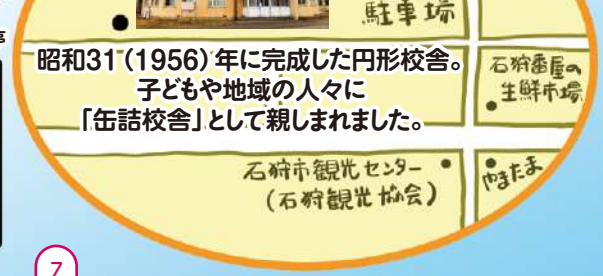
提防

提防の上
歩くのも
気持ちいい

鮭料理専門店
明治13年創業
金大亭

旧石狩小学校円形校舎

昭和31(1956)年に完成した円形校舎。
子どもや地域の人々に
「缶詰校舎」として親しまれました。



石狩市観光センター
(石狩観光協会)

石狩のお土産や
新鮮な野菜などが並ぶ
売店があります!

弁天歴史公園周辺

太郎代雨曝観音と
西国三十三箇所霊場

石狩弁天社
元禄7年(1694)創立

運上屋
かつてあった運上屋を再現し展示も行っています。(運上屋とはアイヌと和人の物資の交易場や宿所として設置された出張所)

楽山居
(旧石狩
医院和室)

海辺で遊ぼう

ビーチコーミングをしよう！

漂着物を集めたり観察したりするあそびだよ

お〜っ

早々足をぬらしてしまう

わ〜

いろんなものをひろったよ

どこから来たのかな〜

プラスチックをひろう

プラスチックばかり目につく

プラスチックかと思ったら生きもののカラ…？

貝がらに穴があいているよ

ふしぎだな〜

しらべてみよう

ゴミ拾いに変更！

裸足で歩こう！

セグローの足あとかわいいね

バードウォッチング

トビ

気持ち良さそうに飛んでるぬ〜

ウミウ

ハマシギ

さかなつり

魚ならなんでもいい

植物ウォッチング

石ころぶウォッチング

いろんな色や形のつぶがあるよ

キラキラしたのもあるぬ

小さな生きものさがし

小魚やヨコエビなど

海のクラフト作り

流木とかリース

写真たて

アクセサリー

貝がらモビール

空から全体を見てみよう

わあ
海も空も
きれい

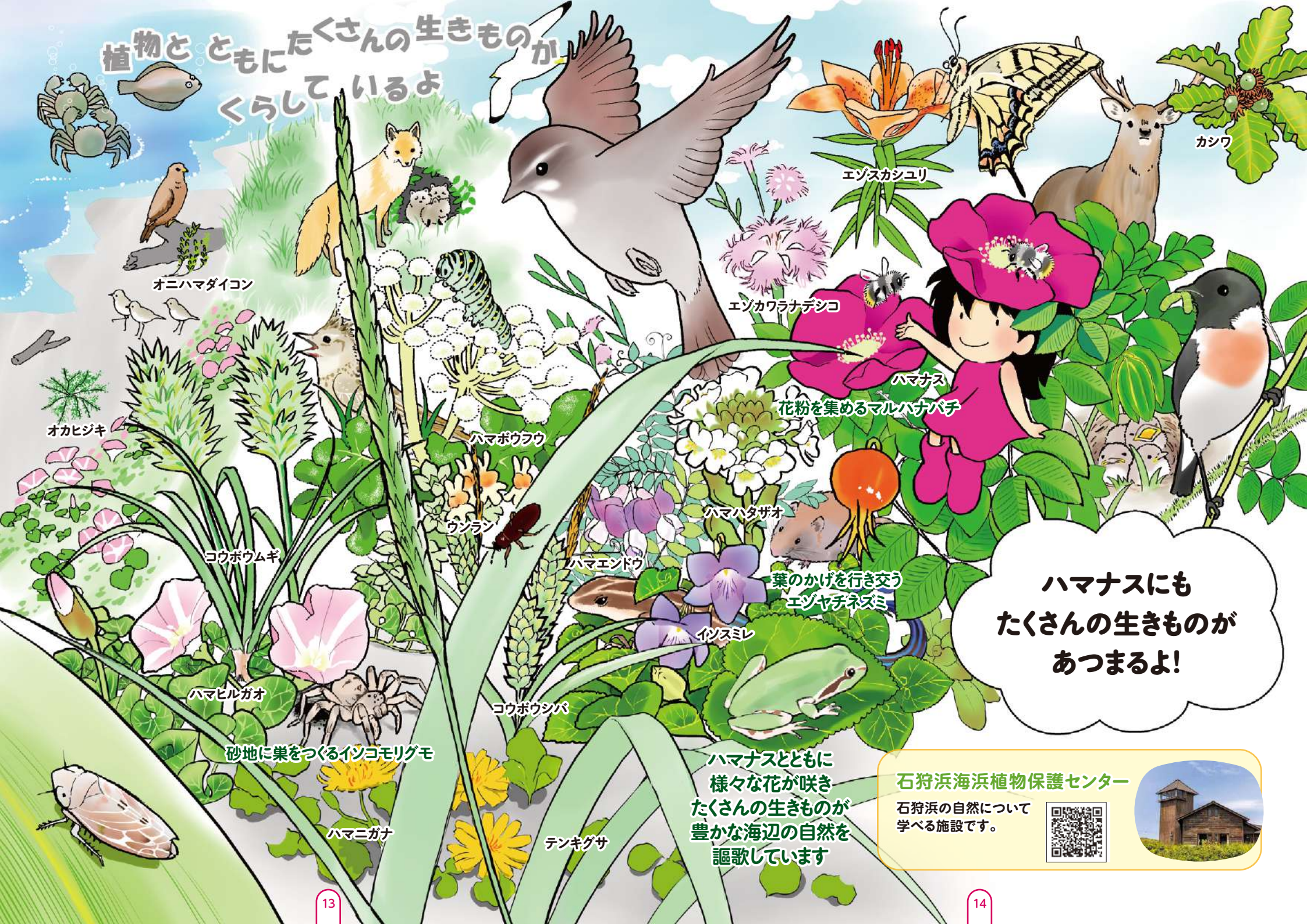
海岸砂丘が
広がってるね

石狩湾には何キロにもわたって
自然の海岸線が残っています
特徴を見てみましょう

海岸砂丘の断面図

海岸砂丘の断面をみてみよう

海からの距離	0m	50m	100m	150m	200m	250m	300m
環境の特徴		風が強くて、砂がたくさん飛んでくる 限られた種類の植物だけが育つ		飛んでくる砂が少なくなる 植物の種類が多くなり草原になる		木が育ち、林になる	海から陸まで 植物でつながって いるんだね！


植物とともにたくさんの生きものがくらしているよ
オニハマダイコン
オカヒジキ
コウボウムギ
ハマヒルガオ
砂地に巣をつくるイソコモリグモ
ハマニガナ
ハマボウフウ
ウンラン
ハマエンドウ
コウボウシバ
テンキグサ
エゾスカシユリ
カシワ
エゾカワラナデシコ
ハマナス
花粉を集めるマルハナバチ
ハマハタザオ
葉のかげを行き交う
エゾヤチネズミ
イソスミレ
ハマナスにも
たくさんの生きものが
あつまるよ!
ハマナスとともに
様々な花が咲き
たくさんの生きものが
豊かな海辺の自然を
謳歌しています
石狩浜海浜植物保護センター
石狩浜の自然について
学べる施設です。

ハマナスを知ろう

どんな花？どんな植物？

バラ科バラ属の落葉低木で、北日本の海岸植物の代表種です。力強さや、鮮やかな花の色などから、北海道の花に指定され、北海道民に親しまれています。

石狩浜では、初夏の訪れとともに、ほのかな甘い香りを放ちながら、力強いピンクの花を咲かせ、海辺の砂丘を彩ります。

砂地に根を張るハマナスは、海からの風や砂を受けとめ、他の海浜植物とともに、海岸草原、海岸林へとつづく海岸砂丘特有の生態系をつくりだします。

その葉陰には小鳥が巣をつくり、花には虫たちが集まり、果実を求めて動物たちが訪れ、ハマナスは海岸砂丘一帯に生命を育みます。

果実（偽果）には豊富なビタミンCが含まれ、抗酸化作用、整腸作用、疲労回復などが期待できます。アイヌの人々は果実をマウ、木をマウニと呼び、根を煎じて腎臓の不調に、実を生食や乾燥保存して食用に利用していました。

ハマナスは、赤くて大きな実も特徴です。寒さに強く、花が季節を通じて咲くことなどから、バラの園芸品種をつくるために用いられてきました。英名にJapanese Rose（日本のバラ）、Beach Rose（海辺のバラ）という名前を持ち、日本を含む北東アジアの海岸が本来の分布域とされていますが、今ではヨーロッパや北米にも広く分布しています。

ハマナスの花の強い香りは、ゲラニオール、シトロネロールなど多数の成分からなることが知られ、沈んだ気分を明るくしたりイライラをしずめたりする作用などがあります。

石狩浜とハマナス

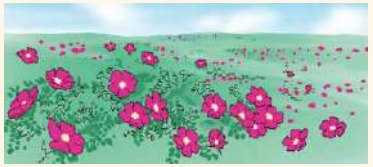
明治期から昭和の初期にかけて、石狩川河口部一帯は砂の堆積がすすみ、ハマナスをはじめとする海浜植物の群生が大きく広がっていた時期と考えられます。明治期よりハマナスの香りは香料として注目され、昭和20年代から30年代にかけては、地元の人たちが盛んにハマナスの花摘みを行っていたそうです（19ページ参照）。

石狩百話（鈴木トミエ編,1996）には、「砂丘に広がる真っ赤なハマナスを見ていると、まるで別世界にいるような錯覚におそわれ、この光景が楽しみで、毎朝ハマナスを摘んでいた」というお話も記されています。

花摘みはやがて人工香料の普及と、当時の石狩町がハマナスを町のシンボルとして保護するようになったことから、行われなくなりました。

石狩浜のハマナスの今

ハマナス彩る砂丘の風景は、近年、牧草類やススキ、低木類が増えてきたことにより、失われつつあります。また、時代の流れとともに地域の暮らしは浜から離れ、ハマナスのある風景への関心は薄れつつあります。



むかしはハマナスが彩る砂丘の風景が広がっていました。

最近は、低木や背の高い草が増えて、風景が変わってきました。ハマナスも少なくなったみたい・・・

そんな思いが集まって「石狩浜ハマナス再生プロジェクト」が進んでいます！

石狩浜
ハマナス再生プロジェクト

ハマナスの咲く石狩浜の風景を未来に残し、ハマナスをシンボルに自然と共生する地域づくりをめざすプロジェクトです。市民、事業者、石狩市が連携して、「ハマナス再生園」の整備に取り組み、イベントの実施やハマナスの商品づくりを通じて石狩浜と地域の魅力を発信しています。

LOVE ISHIKARI COAST with HAMANASU
ハマナス咲く石狩海岸の自然を未来に ー ハマナス再生プロジェクト ー

3つのミッション

ハマナス彩る石狩浜へいざなう

たくさんの人が石狩浜へ「行ってみよう」と思うようなイベントを開催、発信をしています。

ハマナス彩る風景をつくる

石狩浜の原風景「ハマナス彩る砂丘の風景」を再現するために、ハマナス再生手法の検証に取り組んでいます。

ハマナスを使って地域を元気に

ハマナスの持続可能な利用をふまえた商品づくりを通じて、石狩浜やハマナスのPRに取り組んでいます。

この3つのミッションのもとに、フェスティバルやセミナーの開催、「ハマナス再生園」での再生手法の検証、はまなすサポーター（ボランティア）のコーディネート、ハマナスを素材にしたプロダクツの開発、など様々な活動を行っています。

どんな活動？

ハマナスに触れ、香りを感じ、味わい、自然や歴史を学ぶ「はまなすフェスティバル」を開催。

秋のハマナスの実りを楽しむイベント「秋のハマナスDay」を開催。

石狩浜海浜植物保護センター隣接のハマナス再生園で、再生手法の検証や体験学習、花・実の活用に取り組みます。

ハマナス再生園では、苗づくりや移植、除草作業などに、地域一体となって取り組みます。

ハマナス再生園では、花や実を持続的に活用できるよう管理をすすめ、商品づくりや自然体験につなげています。

再生園のハマナスを素材にした商品「ハマナスプロダクツ」をつくり、石狩浜の自然のPR を進めます。

※各商品の詳細はホームページにて紹介。

LOVE ISHIKARI COAST with HAMANASU
ハマナス咲く石狩海岸の自然を未来に ー ハマナス再生プロジェクト ー

このコピーには、私たちの思いがギュッとつまっています。そう、私たちはこのハマナスが彩る石狩浜が大好きなのです。そしてみなさんにも大好きになってもらいたい。私たちの活動は、全てここに帰結します。保全も活用も愛からはじまりました。そして、愛をもって続け、未来につなげたい。そんな思いが込められています。

ホームページ　**https://ishikarihamanasu.jimdofree.com/**

香りの歴史を刻む海辺に
花摘みびと、ふたたび

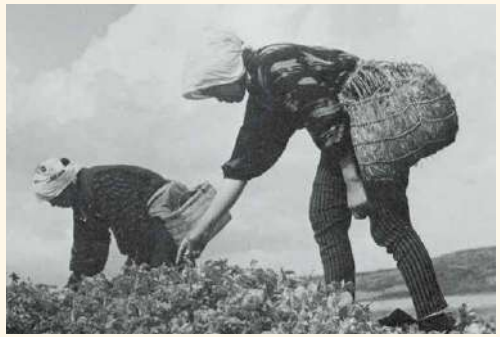
香りの通信舎　伊藤 由起子

ハマナスの花を見かけたら、そっと鼻を近づけてにおいをかいでみましょう。ハマナスは海辺に咲く、日本の野バラの一種。バラの楽園にいるかのような、甘くて華やかな香りを体感することでしょう。かつてはハマナスの花から、香水や化粧品に用いられる香料（ハマナス油）が生産されていました。

その歴史は、明治初期にまでさかのぼります。北海道開拓使（北海道庁の前身）が、新しい産業をおこそうと香料事業に取り組んだのです。まずは1876年（明治9）に、石狩浜で摘んだハマナスの花からハマナス水が試作され、その後、ハマナス油の抽出に成功。1880年（明治13）には石狩浜で2.5トンもの花が摘まれ、札幌に運ばれてハマナス油がつくられています。ハマナス油は香水に加工されて販売されたほか、上野で開催された内国勧業博覧会に出品されました。

この香料事業は開拓使の解散（1882年）とともに途切れてしまいましたが、昭和の時代には民間による本格的な生産が始まります。香料会社の曽田香料が1938年（昭和13）に札幌に工場を設け、以後、約30年にわたり生産を手がけました。原料となるハマナスの花びらは、全道の群生地で近くの住民が摘み取ったものを買い取って集められました。石狩にも花びらの買取所があり、早朝から海辺で人々が花を摘む光景は夏の風物詩であったといいます。

ハマナスの香料は、国産のバラ香料として香水や化粧品に用いられ好評を得ました。しかし、海浜地帯の開発により群生地が減少して原料の確保が難しくなり、合



石狩浜でのハマナスの花摘み。花が開く前の方が摘み取りやすいので、早朝に摘む人が多かった。1955年撮影。（『曽田香料七十年史』より）

石狩市（厚田区）にあった花びらの買取所。買取業務を担ったのも、香料会社から依託を受けた地域の住民であった。ここでは農家が、納屋を使って買い取りに当たった。1961年ごろ撮影。（高橋キミさん提供）

成香料や外国産香料との競争の激化もあって、1967年（昭和42）に生産は中止となりました。石狩市は自然保護のため昭和30年代にすでに、石狩浜での花びらの採取規制に踏み切っています。

それから半世紀以上の年月を経た今。石狩浜には「ハマナス再生園」が整備され、人々が花摘みをする姿が再び見られるようになりました。それは除草作業を手伝いに来る市民であったり、花摘みからハマナス水の抽出までを体験するツアーの参加者であったり。再生園のハマナスを用いた、商品づくりに取り組む事業者であったり。

芳香性の植物には人に有用な機能性に富むものが多く、ハマナス水はもちろん、ハマナスの花びらや果実の持つ美容や健康への作用も、あらためて注目されています。アイヌの暮らしにおいても、ハマナスは大切な薬用・食用植物として利用されてきました。ハマナスとの持続可能で素敵な関係が、この海辺でつむがれていくように。そして、群れなすハマナスが素晴らしい香りで私たちを迎えてくれる石狩浜の環境が、いつまでも守られていくようにと願っています。

ハマナス水とハマナス油

蒸留法という方法で植物の香りを抽出すると、香りのついた水液と香料となる精油という物質が得られます。ハマナスの花びらを蒸留して得られる水液が「ハマナス水」で、精油が「ハマナス油」です。ただし精油を得るには大量の原料を必要とし、1キロのハマナス油を得るのに3〜5トンの花びらを必要とします。ハマナス水は小型の蒸留器でも抽出ができます。

最後に・・・

謝辞

石狩浜ハマナス再生プロジェクトが始動して、まもなく10年目を迎えます。

「石狩浜の稀少な自然、ハマナスが咲く砂丘の風景を未来に…」という目的を掲げ、活動組織の形を変えながらも、多くの方々のお力添えを頂きながら活動して参りました。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。

環境を守ることを楽しむ。そんな時代がもう目の前に来ているのではないでしょうか。まずは石狩浜の自然や歴史、文化を知り、現状をみて何かを考え、一人一人のアクションにつながる。このガイドブックがそのヒントになれば幸いです。

ハマナス咲く石狩浜とその保全活動が、石狩の新しい観光資源として成長し、広く地域の方々と連携しながら、市民の誇りとなるよう、今後も活動を続けて参ります。

石狩浜ハマナス再生プロジェクト協議会
代表　尾形 優子

参考一覧　鈴木トミエ編『石狩百話ー風が鳴る 河は流れる』石狩市発行(1996年)
『曽田香料七十年史』曽田香料株式会社発行(1986年)
『ぐるっと案内』一般社団法人 石狩観光協会発行(2001年)
『石狩宝自慢』一般社団法人 石狩観光協会発行(2020年)
石狩浜ハマナス再生プロジェクト協議会ホームページ
https://ishikarihamanasu.jimdofree.com/

発行　石狩浜ハマナス再生プロジェクト協議会
Email：ishikarihamansu@gmail.com
企画・編集　アミーケ・インターナショナル株式会社
イラスト　石川 祐美
協力　尾形 優子・内藤 華子・伊藤 由起子
デザイン・印刷　株式会社メガ・コミュニケーションズ

※本書の一部または全部の無断転載を禁じます。